

感染症の予防のための情報提供について

病名	腸管出血性大腸菌感染症 (O111)				
年齢及び性別	18才・女性	職業	高校生		
住所	津市				
発病年月日	平成31年 2月16日				
診断年月日	平成31年 2月28日				
(患者発生の経過)					
2月16日 腹痛、下痢、発熱(38℃)の症状がみられた。					
2月18日 症状継続のため市内診療所を受診した。					
2月20日 腹痛、下痢症状が軽快しないため再び同診療所を受診し、翌日、市内病院へ入院となった。					
2月28日 2月22日の便検査から、腸管出血性大腸菌感染症と診断された。 現在、患者に症状はなく退院しています。					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施(津保健所)					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】(四日市市保健所分を含む)					
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
患者	27	29	29	32	2
保菌者	10	15	13	19	0
計(感染者)	37	44	42	51	2
※平成31年1月1日～平成31年2月28日現在まで本件含む 平成31年内訳 患者：O157(1人) O111(1人)					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱(菌を殺す) この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。 肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。 ひき肉は、十分に加熱をしましょう。 焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。 井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却(菌を増やさない) 調理した食品はすぐに食べましょう。 冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫(10℃以下)や冷凍庫(-15℃以下)に入れましょう。					
③ 清潔(菌をつけない) 手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					